

令和6年度小平市立小平第七小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関するなどを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関するなどを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

- 「わが国の言語文化に関する事項」の正答率が東京都平均と比べて一番低く、13.5 ポイントの差があった。
- 話し言葉と書き言葉との違いに関する問題は、全国や東京都の平均を上回った。

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く問題や、物語を読んで心に残ったところとその理由を記述する問題で無解答率が高かった。基礎的な知識の定着や学習に取り組む際の粘り強さに課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 漢字の小テストを定期的に行い、新出漢字の確実な定着を図る。また、教科書やドリルに載っている熟語の一漢字や意味調べを積極的に行うよう指導する。
- 単元末には学習感想を書く時間を多くとり、書くことへの抵抗感を減らすとともに、自分の考えを表現する活動に慣れさせる。また、短文で自分の考えを繰り返し表現する活動を多く取り入れる。

【算数】

状況の分析

課題

- 「C 変化と関係」の正答率が一番低く、東京都平均と比べても 11.7 ポイントの差があった。
- 「思考・判断・表現」の平均正答率は東京都と比べ 8.6 ポイント、全国と比べ 2.9 ポイント低かったが、昨年度より差は大きく縮まっている。

- 基礎的な計算はできるが、考察したり、比例や割合といった既習事項を用いて答えを導き出したり、考えたりする力に課題がある。また、グラフを複合的に捉えて考察したり、図形の定義を理解したりすることにも課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 倍や割合の学習では、数直線を自分の力で書いたり、簡単な数値に直して立式の方法を考えたりさせながら、自分の力で正しく立式する力を身に付けるようにさせる。また、各領域の授業のはじめに前学年までの内容を振り返る時間を設定し、反復して計算の仕方や図形の定義をおさえられるようにする。
- 東京ベーシックドリルや計算クエストなどで既習事項を繰り返し練習する時間を授業の中で確保し、基礎基本の習得を図る。

【質問紙】

状況の分析

課題

- ・「自分にはよいところがある」という設問に肯定的な回答をした児童が 93.5%で、全国や東京都の平均と比べても大幅に高い結果となっている。
- ・学習者用端末などの ICT 機器を授業で活用することで、自分の考え方や意見をわかりやすく伝えることができると感じている児童が多い。

- ・放課後や休日に学習する時間が、全国や東京都の平均と比べ、とても短い。
- ・「算数の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」という設問について、否定的な回答をした児童の割合が全国や東京都の平均と比べて、大幅に多くなっている。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・早寝早起きや、携帯電話での動画視聴や SNS 利用の適切な時間管理など、家庭と連携して生活習慣を整え、学習に向かう時間を確保できるようにする。
- ・学習者用端末を持ち帰ることで、家庭でも各自の課題や興味関心に応じた学習に取り組むことができるようになる。また、一人で学習ができるサイトなどを紹介していく。
- ・算数や理科の学習に、児童が意欲的に取り組めるように、授業改善に取り組む。また、学習内容が日常生活とつながっていることを意識させ、学ぶ楽しさにつなげていく。
- ・お互いの考えを伝え合い、協力しながら学習するツールとして、授業の中で学習者用端末の活用をさらに広げていく。